



アーツ前橋の皆様へ、

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。私は、次々起こる出来事にアムステルダムの自宅で対応しています。コロナ渦の始まりの3月には、アーティスト・イン・レジデンシーに半年間参加するため、ブラジルのリオデジャネイロまで行ったのですが、プログラムが全て中止になったため、その10日後に戻ってくるという羽目にあいました。コロナパニックの前兆とピークをラテンアメリカとヨーロッパの大陸間を移動しながら体験し、ちょっとしたサバイバルでした。帰ってきからの疲れはひどく、コロナにかかったのかと思ったほどです。14日間は自己隔離しましたが、その後は公園などで友人達と会っていました。翻訳などの仕事や、オンライン上に移動したシンポジウムへの寄稿を準備したりなどして、4、5月を過ごしました。毎日体幹を鍛える運動を1時間以上したので、体型が締まりました！アート関係の友人達も、4月の間は(自宅で)忙しくしていたようですが、5月あたりからは、ポツポツと将来を悲観する言動なども目立ちました。私も、リサーチのためにブラジルに戻るめどが全く立たないので落ち込みましたが、元来、長く鬱ぎ込むことができないタイプなので、別のプロジェクトに取り掛かろうと頭を切り替え中です。



オランダの文化面へのサポートは手厚く、自営業(アーティストはだいたい自営業登録)の人は政府からの義援金を受け取れ、モンドリアン財団は、イベント中止にもかかわらず助成金をそのまま払いました。苦労している人がいるのも確かですが、財政的には私の周辺はそれほどトラブルになっていません。もう少し後に大きな影響が出てくるのではないかな、と考えています。逆に、現在の状況を題材にしたプロジェクト募集などがあり、私自身はそのような動きからは距離をおきたいタイプですが、活動の場を得ているアーティストもいるようです。6月



からは、人数制限等がありますが、美術館、映画館やギャラリーも開きだしました。1日には、ダム広場で黒人差別に反対する集会があり、混んでしまっただけでかなり危険だったのですが、マスク着用で参加してきました。アート関係者の多くが参加もしくは賛同しています。今週月曜日には、観光客のいない今こそ、ライクスミュージアム(アムステルダム国立美術館)を何年ぶりに訪れる時だ！と思いつき、人混みのない観賞を楽しむことができました。地元の人のためだけに開放された美術館は、もう少しの期間、維持されそうです。

その場その場の対応が良いのですから、焦らず、とりあえずの今を持ちこたえましょう。まずは、健康でいることですよ！ではでは、アムステルダムより愛を込めて。



萩原留美子

2020年 6月 12日